

海底ごみ適正処理体制構築事業 フォローアップ調査業務 報告書(概要版)

目的

海底ごみ適正処理体制の一層の充実を図る上での課題抽出等の基礎資料として、海底ごみ適正処理体制構築事業の10年間の取組の成果とその評価、さらなる取組拡充や普及方法について検討し、その成果を取りまとめることを目的とする。

調査内容

海底ごみ回収・処理活動の現状に関する調査

沿岸漁業者、沿岸漁業協同組合(以下「沿岸漁協」という。)及び沿岸7市の海底ごみの回収・処理の取組に関するヒアリング調査、並びに標本船による海底ごみ回収量及び性状の調査から、10年間の取組の成果と課題を把握する。

調査は、沿岸20漁協及び沿岸7市に対するアンケート調査、並びに沿岸漁業者、沿岸漁協及び沿岸7市に対するヒアリング調査の方法で行った。なお、アンケート調査は、ヒアリング調査を効率的に実施するための基礎情報の収集を目的として行った。

岡山県海域における海底ごみの実態把握調査

岡山県海域における海底ごみの実態、並びに実際の操業で回収される海底ごみの重量や性状を把握し、海底ごみ回収の取組の効果を検証する。

小型機船底びき網(以下「底びき網」という。)漁船を標本船とし、①岡山県東部海域、②岡山県西部海域、③比較的操業の少ない沿岸500m以内の海域の3箇所を対象として行った。

調査結果

1. 海底ごみ回収・処理活動の現状と成果

- 海底ごみステーションの利用状況から、4つのタイプに類別することができた。
- 岡山県下沿岸7市に設置された13基の海底ごみステーションでは、10年間で少なくとも300t程度の海底ごみが回収された。



笠岡市(大島美の浜漁業協同組合(正頭地区)に設置された海底ごみステーション

2. 岡山県海域における海底ごみの実態

- 回収可能な海底表層付近の海底ごみの量として、岡山県海域では、約200tの海底ごみが存在すると推計された。
- 海底ごみ回収の取組を続けることで海底ごみの回収量は10年前の調査と比較して、単位面積当たりの重量で約1/2まで減少した。(※比較可能なデータのある寄島町漁協での調査結果より)
- 河川などからの流入が続く限り、回収だけでは、海底ごみはなくなる。